

令和5年度第4回社会教育委員の会議 議事録

令和5年度第4回清瀬市社会教育委員の会議が令和5年10月30日に開催された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和5年10月30日（月）13時30分～15時00分

開催場所 清瀬市役所4階 研修室1（対面開催、オンライン出席者有）

出席委員（対面参加）

高井正議長、齊藤しのぶ副議長、西田由美子委員、玉置昌也委員、
相蘇好委員

（オンライン参加）

松山鮎子委員、永嶋昌樹委員

事務局 山田 生涯学習スポーツ課長、金子 生涯学習スポーツ係長、
上竹 生涯学習スポーツ係主査

次第1 開会

高井議長：第4回社会教育委員の会議の開会を宣言。

事務局：・開催方法の確認（対面開催、松山委員・永嶋委員はオンラインで参加）
・資料の確認

（事務局）

議事進行について高井議長にお願いします。

次第2 議題

(高井議長)

令和5年度第4回社会教育委員の会議を始めます。

本日が今期最後の会議となります。

これまで提言書について、文化協会と生涯学習の振興について検討した結果を整理して参りました。本日、最終確認と修正を加えた上で、確定をして、会議の終わりに教育長へ提出をするということで、今期の会議の役割をひとつ果たすことになると思っています。

先日、東京都市町村社会教育委員連絡協議会の第4ブロック研修会があり、委員に参加していただいております。その研修会の報告もお願いをしたいと思います。

前回、提言書については中身の検討をして、いろんな意見をいただき修正しました。特に、松山委員から文化祭・文化振興の3ページ目、協議してきたことをふり返るところで、私は議事録から抜き出したことを並べて整理しましたが、小見出しをつけた方が読みやすいというご意見を受け、4ページ目の文化祭については現状と課題、5ページ目では今後の方向性やミッションとしての交流、というように小見出しに分けて整理をしています。

生涯学習の方はあまり変えないまま、修正意見を反映するような形になっています。

事務局の方から委員の皆様事前に送っていただきまして、ご質問等は特になかったということで、最終確認だけしたいと思います。

冒頭に、提言書の提出にあたって、というものを議長という立場で書かせていただいております。もしかしたら、初めて見る方もいらっしゃるかと思いますが、ご覧いただければと思います。

最後に資料を付けております。委員の名簿と審議の経過ということで残しておいた方が、このような形で議論してきたとわかるので、事務局に作成いただきました。資料の最後に研修会があります。関東甲信越静の研究大会が東京で開かれるということで、齊藤委員と出かけてきたりとか、今年10月にはまた研究大会が開かれたということで、2名参加してもらっています。私たちの活動記録になりますので、こうしたものも入れて整理していただいております。

これらを事務局に作ってもらいました。ありがとうございました。

提言書全体としては、提出にあたっての文書と、文化振興・文化協会についての提言書の部分と、生涯学習の振興に向けてということで構成された提言書です。何か気がついたことがあれば、ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

前回、かなり見ていただいて、修正を反映したつもりですけれども、さらにご意見があれば、自由に出していただければと思います。特に冒頭、提言書の提出にあたってというところをご覧いただければと思っています。

提言書にあたって、実際やってきたことを振り返って書いてみるということ、流れとして書いております。また、非常に難しかったこととしては、本文の中にもありますが、私たちが文化振興に関わるところで、あまり当事者という面が少し弱い中で、議論することの難しさを感じたところを、私の正直な思いですので書かせてもらっています。

最後に、方針を実現するために大事なことです、職員体制の充実について期待しているということを記載してあります。文章で何かお気づきの点があれば、お願いします。

これで教育長に提出するというところでよろしいでしょうか。

(一同、同意)

ありがとうございます。これで提出したいと思います。

委員としての活動の振り返りについては、教育長がいるところで話したほうが良いと思います。教育長に提言書を渡したところで、私なりに説明をさせていただき、少し意見交換をしたいと思います。二つ目に、協議に参加した感想など一言ずつお話いただければと思います。

次第3 その他

(高井議長)

この後、教育長に提出しますが、先に東京都市町村社会教育委員連絡協議会、第4ブロック研修会の報告をお聞きしたいと思います。第4ブロックというのは、清瀬と西東京、小平、東村山、東久留米を指すわけですが、年に1回、研修会を開催しています。

今回、委員の方に参加していただきました。提言書の最後を見ていただくと、第4ブロックは年に1回、毎年この時期に開催していると聞いています。

その他、都市社連の総会とか研修会もあります。来年度以降もこうした会が続いてきますので、ぜひご報告いただきたいと思います。

多摩地域はこうした市町村の会がありますが、私は葛飾区の委員もやっていますが、東部にはなく、全然情報が入ってこないです。多摩地域はしっかりやっているの、ぜひこうした会を大切にいただければと思っております。

今回の第4ブロック研修会は、西田委員と玉置委員が出席されたということで、感想も含めてご報告をお願いできればと思います。

(西田委員)

内容については提言書の資料に書いてある通りです。

川クラブ、PTAの講演があり、それが終わって、事例報告の時間となりましたが、非常

にタイトなスケジュールでした。時間が本当になく、一言で伝えるぐらいで、十分に話し合えなかったです。

当時の若い世代の方が取り組みを行っていました。

(高井議長)

ありがとうございました。

玉置委員、いかがでしたでしょうか。

(玉置委員)

西田委員から報告があったように、東久留米の地域資源を活用したという共同活動で、会議に入った時に、5分間ぐらい東久留米のプロモーションビデオが流れていました。清瀬市もこうしたものがあれば、市のPRとしてはいいのかなと思いました。市がどういう取り組みをしているとか、どういう資源があるのかということがすごくわかりやすかったです。

川クラブが川遊びを子供たちに体験させていることをメインの報告としてあり、あとはグループワークがありましたが、すごく時間がタイトで、5分とか10分ぐらいしかなかったです。そこで自己紹介と、取り組みを話してくださいということで、ほとんど議論というか、ディスカッションはなかったです。

たまたまファシリテーターをしていた方が東久留米の体協の会長だったので、部活動の指導者派遣の話などが議題になりました。小平、東村山、西東京が行っている取り組みの話聞いてきました。

初めての会議でしたが、今度、清瀬にもこの研修会の幹事市が回ってくるということで、何か準備しないといけないなと思いながら帰ってきました。

ありがとうございました。

(高井議長)

ありがとうございました。

清瀬市の幹事市の順番が回って来るということで、私が委員になったときがちょうど幹事市だったと思います。他の方が中身を考えてくれていたので、私が考えることはほとんどなかったですが、どのような研修だといいのかというのは、参加する側から、今度は作る側として、皆さんで考えていくということで、一つ大事な時期のテーマになるかと思っています。

中身のある、プラスになるような研修会をぜひ作っていただきたいと思います。

こうした他の自治体の取り組みを、総会の時でしたか、昭島市の様子を聞いたりとか、社会教育委員の会議だけではなく、何か取り組みをしているケースもあったりするので、いろんな活動があることを知ることは刺激になることだと思います。

これからまた研修会や講演会もありますので、ぜひ参加していただければと思っています。

【坂田教育長が会議に参加】

(上竹主査)

それでは、議長から教育長へ提言書を提出していただきたいと思います。

(高井議長)

提言書を渡してから、委員のメンバーから一言ずつお伝えしたいと思います。

清瀬市社会教育委員の会議として、提言書ということで、2年の期間をかけまして、文化祭・文化協会についてと、生涯学習の振興について、提言書としてまとめた結果を提出させていただきます。

【坂田教育長へ提言書を提出】

(高井議長)

今回、特に教育委員会からの諮問ということにはなかったわけですが、何を議論していくのかということ考えたときに、ここ数年、文化協会や文化祭について、社会教育関係団体に自治体の補助金を出すときに、社会教育委員の会議の意見を聞くというルールがありますので、法律に基づいて、毎年、文化祭など議論していたわけです。

議論していく中で、運営のなり手がいないとか、文化団体そのものに後継者がいないとか、いろいろなことをやるにしても物を運ぶのが大変だとか、いろんなご意見が出ました。補助金を出す際に、そのような課題があるということも議論してきました。

ひとつは文化振興をどう考えていくのか、文化祭を含めてどう考えていくのか。

また、事務局と話をしている中で、前期では生涯学習の基本方針というものを方針に基づいて出させてもらいましたが、文化がどのような状況になっているのだろうかということ振り返る必要があると考えました。

その中で、講師をする職員が要請に基づいて派遣されて、市民の方に情報提供や講師をする出前講座のようなものがあります。また、市民の学習を支援する情報提供事業。こちら冊子が出ていますが、より充実させる必要があるのではないかとということも含めた議論をしました。改めて基本方針も含めて、現状を確認していきたいということで、文化振興、生涯学習振興について議論してきた経緯があります。

その中でも、文化振興について、私も去年の文化祭を見させていただきました。たくさんの方が来ていらっしゃるわけです。年齢の高い方が多いのは当然かと思いますが、そうした方たちの生きる力とか糧に繋がって、それがあれば清瀬市としてプラスになると思います。それが中止になってしまうことは残念だということもありますので、具体的にそのような活動を支援する手法みたいなものを、提言の中に入れていただきたま

した。

ただ、私どもは当事者として文化に関わっている立場ではないということもありますので、なかなか難しいとの思いで、文化協会の正副会長に来ていただいて意見交換や、委員の皆さんの思いを踏まえた上で、できることはなんだろうかと議論しました。議論は難しいというのがそもそもあったわけですが、その中でもできることを提言の中に書かせていただきました。

一つが文化祭と文化協会について書かせていただきました。生涯学習については、すでに様々な取り組みがされていることを改めて理解できました。特に、相蘇委員の前任の菊池委員もコミュニティスクールについて取り組んでくださっていますし、そのことを前向きに議論してきました。そうしてきたことが活かされて、具体的なコミュニティスクールの展開に繋がったことに大変うれしくなりました。こうして活かされたこともあれば、まだこれからのこともあったりするので、いくつか確認をさせていただきました。

これからの時代は、市役所だけが何でもやっていく時代ではありませんので、市と市民団体とか、市と企業とか、いろんな団体も含めて連携していく時に、コーディネートしていく力というのが求められているということです。今、生涯学習だけではなく、いろんなセクションに関わっていますので、役所内のネットワークをコーディネートしていくことも含めて、職員体制の充実がとても大事ではないかということです。

社会教育主事、社会教育士制度ができて、新たに採用というのは難しいと思いますが、市内でそうした資格や称号を持っていらっしゃる方がいる可能性もあります。本人の希望もあるかと思いますが、ぜひそうした方に働いていただけるようにご協議いただくことを提案させていただきます。

こうしたことが、これからどのようになっていくのかということ、委員の皆さんが今後の市の動きも確認していくと思います。ぜひ良い意味で緊張関係を持ちながら、また、委員の方も提案するだけではなく、それをどう自分たちで実現していくのかということを含めて、来期以降も関わっていくことになっておりますので、お願いしたいと思っております。

委員の皆さんから一言ずつお願いします。

【永嶋委員、オンラインにて途中参加】

(永嶋委員)

大変遅くなりました。永嶋でございます。

よろしく申し上げます。

(高井議長)

後ほど、教育長においでいただいておりますので、今回の提言に関わっていただいて

2年間審議いただきましたので、その感想などを1人ずつコメントしていただこうと思っています。最後に永嶋委員にお願いしますので、よろしく願いいたします。

それでは齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

今期は副議長をさせていただきました。

今期につきましては、文化祭・文化協会、生涯学習の振興に向けてということが大きなテーマでした。やはり少しふわっとしたテーマだったので、なかなか意見などが浮かばず、そうしたところが難しかったと思っております。

ですが、高井議長がいろいろと噛み砕いて、私たちが意見を言いやすいように進めていただいたので、何とか絞り出して、私なりに考えて意見しました。

生涯学習につきましては、支援本部や、これから始まる場所もありますが、コミュニティスクールにつきましても大きな関わりがございます。今期に限らず、来期も大いに議論すべき課題かと思いました。

ありがとうございました。

(高井議長)

西田委員、お願いします。

(西田委員)

この2年間、私にとりましても非常に長い期間の話し合い、議論であったなと実感しております。その中で、私自身がお役に立てているのだろうかと思いました。

この一年、実際に補助金をいただく立場の団体、石田波郷実行委員の一員としても活動させていただきました。

大きなことは言えませんが、これからも清瀬のために、文化振興や社会教育にお役に立てるように頑張ります。

ありがとうございました。

(高井議長)

玉置委員、お願いします。

(玉置委員)

今期からこの会に参加している玉置です。よろしく願いいたします。

今回の提言書の文化祭・文化協会も、私が所属している体育協会とよく似ているものがあります。高齢化ですとか、人材教育・育成の部分で、後継者をどう育てていくかというところで、良いところは取り入れながら、より新しいものを作り上げていくという

ことを、市としてサポートしていければいいのかなと思います。

生涯学習に関しても、スポーツを取り入れながら、清瀬市の素晴らしい施設を活用していただいて、市民のために発展していければということで、今後もよろしく願いいたします。

(高井議長)

相蘇委員、お願いします。

(相蘇委員)

学校教育の方の立場から参加させていただいております。

今、学校教育の方の立場からと申し上げましたけれども、私自身が市民として、またこの後、老後に生涯教育というところで、清瀬市の中で、もしかしたら何かをやっていくかもしれないというようなことを考えながら、この委員として参加させていただいております。

その中で、文化協会の方の話を知るとか、文化祭の運営の話を知りながら、例えば生涯学習として、清瀬市のカルチャースクールに参加して、お花を教えてもらおうかしらとか、フラワーアレンジメントでもやろうかしらということと、一つの会を持って、運営して、フラワーアレンジメントの会を持っているから文化協会に所属して、その文化祭の運営に関わるというところには、すごく大きなギャップがあるなど、自分自身の意識の中でも感じました。

そこまでの思いを持って参加できるような、生涯学習的な視点を持った趣味というのか、そういうことをしていくためには、やはり学校教育、小学校の頃から、これが好きとか、あれが好きとか、そういうことで関わってきた実績があることというのは、大事なのではないかなと考えました。

小学校という立場ですけれども、いろいろな文化に触れる機会とか、子供たちがそういうものに出会う機会を、学校としては提供していくことが大事なのではないかなと感じました。

いろいろありがとうございました。

(高井議長)

松山委員、お願いします。

(松山委員)

今期、大変お世話になりました。最初に、私はオンラインでの参加が基本だったので、そのような環境を許していただいて、ご準備いただいたことに大変感謝しております。ありがとうございました。

今期の活動については、当事者の方のお話を聞く機会があったり、なかなかそれはかなわなかったのですが、現場のことを知るような機会が少し持てたということは、非常によかったと思っています。

一方で、私はやはり住民ではない、市民ではない、かつ、その場にいけないという中で議論に参加していたので、どれぐらい当事者意識を持って議論ができたかなというところ、自分ではすごく反省するところが多いです。

なるべく来期は、もう少し実際にそちらに伺う機会を持ちたいと思います。また、会議では意見を言う立場ではありますが、むしろ現場を学びながら議論ができるように努めて参りたいと思っています。

同時に、社会教育・生涯学習は一つの教育の中の一分野ではあるのですが、突き詰めれば、基本的には学校とも家庭とも関わるものだと思うので、いろいろな立場で委員の皆さんが参加しているこの場所が、社会教育という一つのとっかかりを基にして、むしろ、いろいろな専門が混ざり合うというか、共通理解をとれるような形の議論がこれからできていけばいいなと思っています。

来期も、少しでも貢献できるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

(高井議長)

永嶋委員、お願いいたします。

(永嶋委員)

これまでも、特に今年度はほとんど直接伺って参加することができず、このようにオンライン参加であったり、あるいはオンラインでも終わり間際に参加させていただくようなことが多くて、大変ご迷惑をお掛けしたと思います。

いろいろ設定していただいて、事務局にお礼を申し上げたいです。また、直接伺って意見を交わせなかったということに対して本当に申し訳なく思います。

私は社会福祉の立場、専門でありまして、その中でも高齢者福祉が主なのですが、今まで社会教育というところから、あまり見たことがなかったです。むしろ、社会教育という視点で見たところが新鮮でありました。

ただ、社会教育も社会福祉と非常に親和性が高いと感じているところです。

教育なのか、福祉なのかと考えてみると、どうしても隔たりとあります。境があるようには思いますけれども、人の生活や人生の中を、そうした法律制度で割ることはできませんので、いろいろな見方からはそれぞれ違えども、その人の住む世界であるとか、世代の繋がりであるとかということからは、本当に共通して見ていくところかなと感じております。

私は結構、考え方は古いところがありますので、これまでの伝統といいますか、行ってきたことをいかに繋げていくかということを考えてきたわけであります。社会の動きとか、世間の情勢など、いろいろ新しく変わっていて、また変わっていかざるを得ないようなところが多々あるのではないかと考えております。

これまでの行われてきた市民文化祭もそうですけれども、何か新しい方向性に変わっていくということは、自由なのかなと感じているところです。

一方で、これまで行われてきたところをいかに継承していくのかということも、私としては大切な部分だと思います。その辺のバランスをとっていくような提案ができればと考えております。委員の皆様方から、いろいろご意見を聞くことによって、私も非常に学ぶところが多くありました。また今後もお世話になりますので、どうぞよろしくお願ひします。

ありがとうございました。

(高井議長)

ありがとうございました。

ただいまの永嶋委員のお話を聞いて、社会教育と社会福祉というのは裏表だったりすると言われたりしています。

社会教育、社会福祉、福祉のウェルフェア(welfare)、ウェルビーイング(well-being)、社会教育をよりよく生きるために学ぶということは重なってくるので、そうしたところの意見交換もあればよかったのかなと、改めて反省をしているところでもあります。

松山委員も社会教育、生涯学習ということを共有するための議論、議論はしなくてもいいかもしれませんが、今後議論を土台にするのかなということも指針とお話されておりましたので、基本的なことも含めて、次期はご検討いただければいいかなと思ひ、改めて書いたところです。

私自身は、3期6年間、委員をさせていただいて、今回全体の最後として、二つのテーマについて提案することができたことは、私も清瀬での6年間の一つのまとめになったのかなとも思ひました。大変良い機会をいただいたと思ひております。

私以外、6名の委員の方は継続していくわけですが、私は今回退任させていただきます。

全く清瀬のことがわからないまま、この社会教育委員をさせていただいたわけですが、その間、社会教育委員の立場から、公共施設の見直しの会議に出させていただいたりとか、学校の配置についての会議に出させていただいたりとか、施設の運営の選定に関する会議に出させていただいたりとか、清瀬がいろいろ取り組みをする場面のちょっとした部分ですが、関わらせていただきました。

大きな課題で、非常に財政的に厳しい中で、丁寧に取り組んでいらっしゃるという清瀬の姿勢もよくわかりました。

例えば、教育長が教育に関する情熱や強みというの、いろいろな場面で書いていました。その思いが実現していくというところで、社会教育がどういうことができるかということも含め、考えてきたことをどこまで自分ができたかわかりませんが、提言の形で整理できてよかったなと思っているところです。

課題がたくさんこれからあるわけですが、そうした課題があるから、委員の存在価値もあります。提言していくことの大切さをいろいろな方が認識してくれて、そこでどういったものを生み出していけるのかということ、社会教育委員の皆様の真価がこれからさらに問われていくのかなと思います。ぜひ、事務局との勉強を大事にしながら、次年度以降また、取り組みを進めていただければと思っています。

私もよく知っている方が後任になります。私よりも遥かに研究者としての実績のある方で、文化について長いこと大学の教員だった方です。社会教育委員の経験もあり、たしか立川で委員をされていたかと思いますが、私より若い方で、大ベテランの方です。多摩地域をよくご存知の方ですので、ぜひその先生の持っている力をどんどん引き出して、活用していきながら、充実した会議にしていいただければと思います。

教育長はじめ、職員の皆さんには、また次期の委員の皆さんにご支援と、変な言い方ですが、どのようにいい形で活用していくのかということ、マネージメント力が事務局に求められていると思います。いい形で力を引き出してもらえればと思います。私としては魅力だったわけですが、6年間で新たな発見がたくさん出てきました。

声をかけていただいた教育長や皆さんに感謝を申し上げたいと思います。最後に2年間一緒に取り組んでいただいた皆様にも、お礼を申し上げて、簡単なコメントにしたいと思います。

どうもありがとうございました。

最後に教育長から一言お願いできればと思います。

(坂田教育長)

高井議長はじめ、社会教育委員の皆様、本当にありがとうございました。

確かに提言書を受け取らせていただきました。

今、皆様方のご挨拶を伺って、こういう言葉を思い出しました。

ある文化人類学者が言っていた言葉です。

「文化とは、一銭の金にもならない営みである。経済的には何の実りもない営みである。ただし、そのお金には代えがたい生き甲斐や、やりがい、繋がりという宝を与えてくれるものだ。」という言葉思い出しました。

やはり、文化は薄い紙を積み重ねるように作られていくものであろうと私は思っています。時間をかけてゆっくりじっくり成熟させていくものが文化であって、急激な変化が似つかわしくないところがあると、私は個人的には思っております。

今議論いただいていた文化協会のあり方、もしくは体育協会も同様でございます。そういう様々な地域の団体の方々がどんな高齢化をしていき、またその持続可能性というところで大きな課題を抱えています。本来は時間をかけて、ゆっくりじっくりと成熟させていくものですが、そうも言っていられないという現状があらうと思います。

そういう中で、永嶋委員もおっしゃいましたが、何らかの仕組みをこの中に入れていく必要があるのではないかと思います。例えば、文化祭で数年前から小学生の合唱が入っています。これまでご高齢の方々が中心の出し物だったのが、その中に小学生中学生たちの合唱が入る。これだけで、出演の方々含めて、会場にいらっしゃる方々もとても何か気持ちを明るくし、何かエネルギーを得ていただけるような現状を私は見えています。やはり、そこからかなというように私は思います。

新たな仕組みという、何か大上段に構えてしまいましたが、きっと舞台上で発表したい人達は、子供たちも含めて市民の方にたくさんいらっしゃるのではないかと。例えば、社事大の学生もいらっしゃるのではないのでしょうか。また、日頃お付き合いしている看護大学校とか、明治薬科大学とか、そういう学生に声をかけるということもありかもしれない。

何かその中に、新しい若い人たちを入れていくということも、一つの方策になっていくのではないかと考えております。

また、もう一つの課題である生涯学習のあり方について。私は学校教育の出身で、元教師でございます。相蘇委員と全く同じ立場なのですが、私はこの9年間の義務教育の期間はものすごく大事だと思います。けれども、それ以上に人生100年の9年を引いた91年間、これをやはり大事にしなければいけないと思っています。

これがまさに生涯教育、生涯学習というものではないかと考えています。

人生100年時代を心身ともに健康に、また充実して生きるためには、やはり学びの機会であったり、その学びをどこかに活かせる機会であったりというのは、どうしても必要になってくると私は考えます。

ここの仕組みが、あまり上手にしていなかったことも確かなのではないのでしょうか。学んだ成果を次の世代に引き継いでいく、学びを継続していく、この循環した社会を作り上げていくということが、やはり私は持続可能な日本や日本文化をとというものを作っていくのではないかなと思います。

おそらくこの提言書の中には、私の思いを受けていただいて、様々な提言をいただいているものと拝察いたします。ぜひ、これから事務局とともに、じっくりとこの内容を読ませていただいて、政策化できるものについては、しっかりと具現化をしていきたいと思っております。

長い時間に渡り、議論いただきまして、このような形でまとめていただきましたことを、心から改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。また、最後になりますけれども、高井議長におかれましては、3期務めていただきまし

た。実は、高井議長には相当無理を申し上げて、ご就任をいただきました。お忙しい中で、本市もまだまだ社会教育のシステムの足腰も十分にできてない中で、高井議長に本当にご苦勞かけてしまいました。

ただ、私も社会教育委員の会議に出させていただいた折には、高井議長のお話が我々の学びになっているのではないかなと感じていました。

実は、我々は社会教育委員を名乗っていても、なかなか社会教育のことについてしっかりと勉強した者がいない。皆さんも同じだと思うのですが、私も同様でございます。高井議長のご実践、もしくはお考え、理念。こういうものを受け取らせていただきながら、自分が少しずつ社会教育のことについて学べていくことができたと思っています。社会教育委員の皆様方も同じ思いをお持ちでいらっしゃるのではないかと思います。

文化と同じで、人間も本当に薄い紙を1枚1枚積み重ねるように成長していくものがございます。高井議長のおかげで、私は厚い紙を積み重ねることができたことを、改めて心から御礼を申し上げたいと思います。

高井議長、本当に長い間ありがとうございました。

委員の方々、本当にこれから先も、まだまだ課題山積でございます。私も生涯学習、社会教育に関する思いは、まだ半分も実現されていないと私が自分で評価をしております。

ぜひ、そのブレーンなっていただいて、また、相談相手になっていただいて、これから先も清瀬の文化振興、社会教育の振興にお力添えいただけるように、改めてお願いを申し上げ、今日、私からの御礼の言葉とさせていただきます。

本当に皆様方、ありがとうございました。高井議長、ありがとうございました。

(高井議長)

ありがとうございました。

では、事務局から連絡をお願いします。

(上竹主査)

今回の会議は12月22日(月)午前9時30分～11時、清瀬市役所本庁舎2階会議室2-3で予定をしております。会議終了後、11時過ぎ頃を目安に教育委員との懇談会の実施を予定しております。

前回お伝えしたように、この12月の会議で、議長と副議長を選任することとなりますが、議長及び副議長は委員の互選となります。つきましては、委員の皆様から議長及び副議長に推薦したい方がいらっしゃいましたら、推薦をお願いいたします。

また、すでにメール等でお伝えしている通り、次期委員には倉持伸江様にご承諾いただいております。

そして、今月末をもって、委員の皆様の任期が終了となります。高井議長以外の委員の皆様には引き続き次期の委員をご承諾いただいておりますので、次期につきましてもよろしく願いいたします。

なお、今期をもって、高井議長が退任されます。高井議長は平成29年11月から3期6年、清瀬市で社会教育委員をされてきました。令和2年からは議長に就任され、社会教育委員の会議を牽引していただきました。

それでは、最後に改めて高井議長より一言ご挨拶をいただきたいと思います。

(高井議長)

私が1期目に委員になった時には、副議長をさせていただきました。

当時の社会教育委員の会議の主なテーマは、成人式をどのような形で運営するのか、そうしたことが中心の大きなテーマだったわけですが、そこから先の生涯学習をどうするのかというのは、ずっと思っていたところでした。

なかなか議論が成立しにくい場面があったわけですが、そうしたところをどうしていくのかを私も考えながら取り組みました。同時に、時間があるときには、教育長も会議に参加していただき、思いをどんどん出してくださいましたので、私たちに何ができるのかということも1期目から考えながらやってきました。その流れに乗って、二期目以降、会議らしい会議もだんだんできるようになってきたなと思っています。これは本当に皆様の力と、教育長はじめ職員の皆様の協力体制があったからだと思っています。

社会教育委員というのは独任制の会議ですが、議論する時には委員の会議という組織体で動いていきますので、自分の意見を大事にしつつ、どのように会議体として意見を共有していくのかということが問われると思います。

これからの清瀬にとって、どういうものがプラスなのかということと、自分の思いをぜひ大事にしていきながら、それをうまく繋げていけるような議論をしていただいて、将来的に清瀬の街が豊かになり、市民が豊かになるように、少しでも支援になるような活動を期待したいなと思っています。

こうした機会をいただいて、ありがとうございました。

令和5年度第4回清瀬市社会教育委員の会議を終了いたします。ありがとうございました。